

syounankai

# 井谷南会報

第63号



## 今こそ、同窓会の意義の再確認を

松楠会会長 藤本 泰雄



学生への講話

松楠会会員の皆様、それぞれの支部での総会に、さらには秋に開催されましたホームカミングデーに、多くの方々にご参加を頂き、ありがとうございました。また、この度、ご卒業ご修了を迎えられました皆様、松楠会への入会を、心から歓迎申し上げます

さて今、世界に広がっている分断と排除の空気が色濃くなり、私たちの身近でも、その影響を感じています。そうした中であるからこそ、それぞれの立場で、社会の一員として力を発揮し、充実した日々を過ごしていくには、何より、人とのつながりを大切にし、常に自己を多面的に認識した上で、内省を繰り返しながら、自らの人生を切り拓いていくことが重要であります。

その際の骨格となるのが、将来を見つめながら過ごしたキャンパスでの学びであり、薫陶を受けた恩師の教えであり、切磋琢磨した仲間の姿であります。

こうした仲間が集う同窓会の意義は、折々に自らの存在を思い起こし、確認する場であり、大変貴重なものであります。

香川県が生んだ文豪 菊池 寛が創刊しました「文藝春秋」には、同級生が喜びを分かち合う「同級生交歓」と題する名物企画があります。

昔の仲間が集い、懐かしい話に花を咲かせるなど、旧交を温めることを大切にしながら、日々取り組んでいる各々の職務や生活の充実につながる刺激を互いに受け、更なる発展を目指していこうとする姿が、同窓生とのつながりにはあります。

松楠会を、今後の人生における人とのつながりにおいて、意義あるものと捉えていただき、その一員であると自覚し、行動することで、益々充実した生活を送られることを望んでおります。

## 急速に変化する社会に対応できる教育学部を目指して

教育学部長 平 篤志



2025年10月、教育学部長に再任されました。日頃より、学部・研究科の運営に多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

香川大学教育学部は、1949年、香川大学の設立とともに学芸学部の名称で誕生し76年が経ちました。1966年に教育学部と改称されてから59年になります。この間、香川県を中心に、国内の教育界を軸にさまざまな分野に卒業生を送り出してきました。香川大学教育学部は、学校教員をはじめとした教育者を養成し、広く国内外の教育界に貢献することを理念としています。その理念に基づき、豊かな人間性と、教職を軸に教育に関わる分野に強い使命感をもつとともに、社会の変化やニーズを適切に理解し、学校現場や教育界が抱えるさまざまな現代的教育課題に協働して対処することのできる、専門的知識と実践的指導力を備えた教育者を養成してきました。

国立大学を取り巻く情勢は、年々厳しさを増しています。少子化の流れは専門家の予測以上に進んでいるようであり、昨年2024年の出生者数ははじめて70万人を切ったとのこと。香川大学においても徐々に入試倍率が低下しつつあり、学部の良さや強みを受験生により広くアピールするなど目下対策を検討しています。また、2022年のロシアのウクライナ侵攻などによる影響で諸物価が高騰し、2004年の法人化以降運営費交付金の増額が凍結されている国立大学は、設備の更新はもとより、現行設備の修理もままならない状況にあります。教員の研究費も減少傾向です。今年の夏は長期にわたって異常な暑さが続き、地球温暖化の進行をまざまざと感じさせましたが、光熱費の高騰が学生の教育環境や教職員の労働環境に悪影響を与えないよう対処に苦慮しています。

地方国立大学は、立地する地域を中心に高等教育の核を担う重要な存在です。教育研究面で不断の努力を重ね、内外の社会の急速な変化に対応できる人材を輩出すべく、これからもその責任を果たして参ります。教育学部では、教育を通じた持続可能な社会の実現を念頭において、松楠会と手を携えて、有為な教育者を育成し、地域社会に貢献できるよう努めて参ります。

## 「緩やか」につながる松楠会へようこそ

松楠会理事長 山本木ノ実



松楠会の皆様には、日頃より母校へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。香川大学教育学部卒業生・教育学研究科修了生の皆様、ご卒業・ご修了おめでとうございます。私たち松楠会の新たな仲間として、皆さんをお迎えできることをとても嬉しく思います。

松楠会は、香川大学教育学部・教育学研究科の同窓会として、諸先輩方と後輩たちをつなぐ大切な役割を担っています。これから皆さんが活躍される地には、松楠会の各支部があり、身近な会員の方々につながることができます。

その一つに、若手会員活性化事業があります。これは、支部の若手会員が中心となって企画する活動を松楠会が支援するものです。これまで各支部で行われた活動には、指導案作成やアイデア教材の交流会、ICT研修、学級経営等について語り合う座談会など学びの場づくりの他、レクリエーションを通して先輩方と後輩たちと交流する絆づくりなどがあります。また、各支部で開催される総会では、大学時代に共に過ごした仲間たちや、かつて同じ職場で務めた先輩や同僚の先生方にお会いすることができ、当時の懐かしい思い出話で盛り上がります。

今の社会は目まぐるしく変化し、様々な困難や不安なことに今後ぶつかるかもしれません。そんな時、松楠会の皆さんとの「緩やか」なつながりが何かのヒントとなり、皆さんの支えになることと思います。

松楠会の先輩会員の皆様、新しく仲間になられた若い会員の皆さんへのあたたかいご助言やご支援を引き続きどうぞよろしく願いいたします。



静かな歳月と、皆さまへの感謝

青山 夕夏

長く歩んできた日々をふと振り返ると、風にさらわれるように静かに過ぎていったと感じます。

在職の間、松楠会の皆さまには幾度となくお力をいただき、その一つひとつが、心に残っております。教育学部の卒業生の方々とは折々にお目に掛かる機会がございましたが、講演にお招きいただいたとき、変わらぬ温かさで迎えていただきましたことを、ただただ感謝しております。

19年前、「わくわくコンサート」をはじめた頃、無料開催ゆえ、資金に苦心し、心細く思っておりました。そんな折、当時理事長であられた数学講座の岡田順直先生に支援をお願いに伺った際、「ほくは、そういうことをやったらいいと思っていたのですよ」と励ましてくださいました。その言葉は、今もどこか遠い山の響きのように聞こえております。「コンサートホールに足を運びにくい子どもたちにも音楽の喜びを届けたい」、その思いからはじめた催しは、皆さまの支えを受け、十八回を重ねました。満員の客席を前に、子どもたちのまなざしが明るく開けていくのを見るたび、胸の奥に喜びが灯りました。「子どもの頃にわくわくコンサートへ行きました」と語る学生が入学し、運営に加わってくれるようになったことも、嬉しいことでした。また、立ち上げの頃から事務を支えてくださった岡田尚子氏には、長年にわたる温かなご協力に、深く感謝申し上げます。

在職中に賜りました多くのご縁とご厚情に、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



ごあいさつ

小西 憲一

31年間に亘り、大変お世話になりました。昨年末、大学博物館の多大なるご尽力のもと、展覧会を開催いたしましたところ、たくさんの方々にご来場いただきました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

この「松楠会報」の題字を書かせていただいたのはいつだったか、遠い過去の様でもあり、つい最近の様で

もあります。また、教育学部北玄関右側の「教育学部」「教育学研究科」の銅板を書かせていただいたことも何よりの思い出です。いまだ金色のひ弱な文字が、東門の銅板「香川大学」のように風格ある青銅色になれば、何とか様になるでしょうか。

伝統ある香川大学教育学部書道研究室を、藤原鶴来先生、小林松翠先生の後、何とか次の世代へと繋げることができたこと、何よりうれしく思います。身の回りから手書き文字が消えていく現代にあって、逆にその必要性や存在価値は高まっていくことを感じます。とりわけ教員養成における書写書道の役割は、大きいものと思います。どうぞ引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



学びと感謝を胸に

川東 芳文

私は、3年前、交流人事教員として着任しました。高校教員である自分に大学で何ができるのか、不安な気持ちで満開の桜が彩るキャンパスに足を踏み入れたのを、今でも鮮明に覚えています。

大学では、授業のほか、教職支援や高校との連携などに携わってきましたが、教職員の皆様の温かいご支援、そして、学生の皆さんのひたむきな姿勢に励まされながら、何とか3年間を終えることができました。

現場経験を生かして、教職を目指す学生の皆さんを支援することが私の役割でしたが、学ぶことの方が多かったというのが、率直な気持ちです。先生方や学生の皆さんとの交流や附属学校園での授業参観を通じて、学校教育の現状や課題について考える際の新たな視点を得ることができ、子ども理解や学級経営の大切さ、主体的な学びを促す授業づくりの工夫など、教育の基本を改めて捉え直すことができました。そして、教師としての自分のこれからのあり方について、教育の原点に立ち返って考える貴重な機会となりました。今後は、教育学部で得た知見と経験を生かし、生徒一人ひとりの可能性を広げる教育に尽力してまいります。

最後になりましたが、教育学部と松楠会のさらなる発展をお祈り申し上げます。そして、この素晴らしい学び舎で学んだ学生の皆さんが、自分の強みを生かし、輝かしい未来を築いていかれることを心から願っています。本当にありがとうございました。

母校教員の異動

退 職

令和8年 3月31日	退職(定年)	青山 夕夏	教授	R8.4.1付け名誉教授(予定)
	退職(定年)	小西 憲一	教授	R8.4.1付け名誉教授(予定)
	退職	吉澤 樹里	准教授	
	退職	杉田 貴瑞	准教授	
	退職	川東 芳文	准教授	交流人事教員

訃 報

佐藤 恒雄	(名誉教授)	2025年10月8日	ご逝去
中塚 勝俊	(名誉教授)	2025年10月25日	ご逝去
岡 晋平	(名誉教授)	2025年11月4日	ご逝去
橋本 正範	(元会長)	2026年1月6日	ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

# 支部だより

## 高松 支部

## Takamatsu



高松支部では、会員の支部への所属意識に変化が見られます。しかし、8月には定期総会や懇親会だけでなく、東谷の農村歌舞伎祇園座保存会理事長の鎌田義美氏による「歌舞伎の力・子どもの力～伝統文化を支える地域のちから～」と題した講演会を実施しました。歌舞伎にかかわる中で、子どもや地域が変わる姿を感じるひと時になりました。また、支部だよりを発行して、現職会員からOB会員までの会員意識の向上を図っています。

会員の絆が少しでも深まるよう努力していますので、新入会員の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

後藤 文男(教育・昭和46年卒)

## 丸亀 支部

## Marugame



丸亀支部の課題の一つとして、総会に現職会員の参加がほとんどないということがありました。そこで、今年度は現職会員に働きかけ、3名の参加を得ることができました。総会後の懇親会では、一人一人に大学時代の思い出や現在の学校の様子などを話していただき、和やかな交流の中でとても有意義な時間を過ごすことができました。次年度、さらに多くの現職会員の参加を得て、交流できることを期待しています。

平田 貴久(教育・昭和57年卒)

## 坂出 支部

## Sakaide



坂出支部の会員は、現職116名、OB86名の計202名です。総会を8月23日(土)に開催し、松楠会副会長の貞廣美津子様、学内理事の坂井聡様にご臨席いただきました。総会後には、香川大学教育学部教授の坂井聡様に「障害があるとはどういうことだろうか?」の演題でご講演いただきました。障害を個人の特性ではなく、社会によってつくられた問題と捉え、誰もが社会参加できるように環境を整えることの大切さを学びました。食事会では近況を報告し合い和やかな時間を共有しました。

樽本 導和(教育・昭和60年卒)

## 大川 支部

## Okawa



令和7年度、大川支部はOB237名、現職会員134名、計371名で活動しています。

8月23日(土)には、じゃこ丸パーク津田において、小笠原監事様、宮本学内理事様をお迎えして大川支部総会を開催することができました。総会後には、宮本学内理事様のご講演を通じて、香川大学が施設および技術的な支援を通じ、カンボジアの学校衛生環境向上に貢献している取り組みについてお話を伺うことができ、参加者一同、大いに学び、親睦を深めることができました。

今後も、会員の皆様のご協力をいただきながら、親睦を深める活動となるよう尽力してまいりますので、よろしくお願いたします。

井上 裕章(教育・平成2年卒・東かがわ市立引田中学校)

## 小豆 支部

Syozu



素晴らしいスタートを切られた新入会員の皆さま、おめでとうございます。

小豆支部は総勢111名で構成され、地区毎に担当者がいます。会報配布や集金等を通じて、松楠会との接点を広げようと活動しています。毎年8月に支部総会が開かれ、令和7年度も本部から2名の方々、支部から24名の参加を得て開催しました。今年の講話は、早大応援歌「コンバットマーチ」作曲者で元土庄町長の三木佑二郎氏に依頼。マーチと経験豊かな人生論に包まれました。

若手研修会も実施されました。新入会員の皆さま、共にがんばりましょう。

柳 敬子(学芸二・昭和30年修)

## 木田 支部

Kita



新たに松楠会にご入会される卒業生の皆様、おめでとうございます。

木田支部では、毎年8月に支部総会、懇親会、教育講演会(木田教育会との共催)を行っております。今年度の教育講演会では、子ども女性相談センター一時保護所課長の清藤明代様、学習支援担当の佐々木誠様をお招きし、「子どもハウスから見える子どもたちを取り巻く今日的な状況と関わり方」と題した貴重なお話を拝聴しました。現職教員も多数参加し、家庭的に問題のある子どもたちに向き合う姿勢や考え方について、多くのご示唆をいただきました。

新入会員の皆様とも手を携え、今後も支部活動を通して益々充実する松楠会をめざします。活動へのご参加を心よりお待ちしております。

高重 淳(教育・平成2年卒・三木町立平井小学校)

## 綾歌 支部

Ayauta



ご卒業おめでとうございます。皆様の松楠会綾歌支部へのご入会を心より歓迎いたします。

令和7年度綾歌支部にはOB会員140名、現職会員153名の計293名が所属しています。綾歌支部では、例年会員相互の親睦を兼ねた支部総会を8月に、支部活動の様子や会員の近況を紹介した支部だよりの発行を10月に行っています

令和7年度は、8月23日(土)に松楠会木村副会長様、大西学内理事様の参加を得て支部総会を開催しました。総会後に、岡田小学校による「若手会員活性化事業」の実践報告、さめきっ子安心安全ネット指導員小林康則様による「一緒に考えてみませんか?子どもを守るためにできること」と題した孫育ての世代にも非常に参考になる講演がありました。その後の懇親会では、会員相互の近況、学校現場の様子や話題など、会員相互の親睦が一層深まり、時間を忘れ終始和やかな会となりました。

令和8年度は、今まで以上に多くの会員が気軽に参加でき、参加してよかったと思える支部総会となるよう準備を進めてまいります。ぜひ新入会員の皆さまの支部総会へのご参加を心よりお待ちしております。

香西 弘志(教育・昭和52年卒)

## 仲善 支部

Tyuzen



ご卒業おめでとうございます。皆様の仲善支部へのご入会を心より歓迎いたします。

仲善支部では、7月に総会を行い、危機管理先端教育研究センターの高橋真理先生に「南海大地震に備える」という演題で、ご講演していただきました。また、昨年度より実施している、会員相互の親睦・交流を深める「交流活動推進事業」につきましては、16名の参加がありました。今年度はさらに多くの会員の参加をお待ちしています

す。本会の活動が、現職教員にとっても魅力あるものになり、より多くの会員相互の交流の場となるよう努力していきたいと思っています。

環 修(教育・昭和55年卒)

## 三観支部

Sankan

ご卒業おめでとうございます。皆様の三観支部へのご入会を心より歓迎いたします。

本支部では主な活動として、支部活動と会員の活動や近況を紹介した支部だよりの発行と支部総会、記念講演会の開催を2年のサイクルとして隔年で行なっております。

令和7年度は、総会、記念講演の開催の年となっております。とりわけ、記念講演では、「讃岐源之丞保存会」の方々のご厚意による人形浄瑠璃公演を行います。地域役員や会員が一同に会し、相互の交流や親睦を深められることを期待しております。

今後とも、同窓の仲間が親交を深める活動を活性化していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

三谷 光雄(教育・昭和49年卒)

## 兵庫支部

Hyogo



兵庫支部(紫雲会)は、毎年総会と若手懇親会を実施しています。兵庫県は五国と言われ、広い範囲に会員がいます。たまたまの縁で香川大学でともに学んだ仲間です。人とのつながりが難しい状況です。総会では、参加者の心境や現状や、大学の思い出話など、和気あいあいと話し合っています。若い方中心の若手懇親会も企画しています。同窓生として、多くの方の参加をお願いしたいです。参加してよかったと思える活動にしたいと考えています。紫雲会への参加を待っています。

木岡 正雄(教育・昭和48年卒・一般社団法人兵庫教育会)

## 岡山支部

Okayama



香川大学教育学部を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。松楠会岡山支部へのご入会、心より歓迎いたします。

岡山県内には、多くの先輩方が、様々な方面で活躍しておられます。皆さん方にとっても大学の先輩であり、心強い味方です。

絆を深めるために、岡山支部では、例年8月に支部総会・懇親会を、11月には岡山のいいところを見直し、仲間の親睦を深めるために、秋の支部行事を行っています。令和7年度は、倉敷美観地区をガイドさんの案内でめぐり、新たな発見をしました。

本年度も、充実した支部行事になるよう計画しています。その際には、心を込めて「ご案内」をお届けしますので、学友誘い合ってご参加くださり、仲間としての絆を深めていきましょう。

小林 巧(教育・昭和55年卒)

## 徳島支部

Tokushima



卒業する皆さん、ご卒業おめでとうございます。徳島支部へのご入会を心より歓迎いたします。

徳島支部では、夏に、総会並びに親睦会を実施しています。退職者に加えて現職の教員も参加しており、親睦会では、食事をしながら近況報告やなつかしい大学時代の話などで盛り上がっています。

令和8年度は、多くの方に呼びかけるなどして、参加者を増やすように計画しています。是非、懇親会に参加していただき、その際には、先輩からの貴重な情報などもお伝えできればと思っています。

これからも人と人との繋がりを大切にしながら、徳島支部を活性化していきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

橋本 隆(教育・昭和59年卒)

# 卒業・修了生からのメッセージ

## 幼児教育コース

川本 瑞希

4年間の大学生活は、私の人生の中で最も大きく成長できた時間だと思っています。授業や実習を通して、人と関わることの大切さを学びました。さまざまな人と意見を交流することで、多様な価値観に触れ、自分自身の考え方や在り方を見つめ直すきっかけにもなりました。特に日々の授業では、同期の仲間たちと保育について正解にとらわれることなく、思うままに語り合えた時間が心に残っています。実習では不安や悩みを共有し、互いに励まし合いながら乗り越えることで、仲間の存在の大きさを改めて実感しました。また、先生方には常に親身に寄り添っていただき、悩んだときには共に考えてもらえる存在であったことが心強かったです。先生方との関わりを通して、視野が大きく広がったと感じています。かけがえのない仲間や先生方との出会いに感謝し、春から新しい環境でも、よりよい保育を求めて学び続けていきます。



## 教育領域

白川 結月

4年間の大学生活が終わろうとしています。コロナ禍が落ち着き、1年生の頃から対面授業を受けられたことは、友人との交流を深める大きなきっかけとなりました。教研合宿や未来からの留学生では、同級生だけでなく先生方、先輩・後輩とのつながりも広がり、多くの学びや経験を得ることができました。未来からの留学生では、創作劇やレクリエーションを仲間と協力して行い、子どもたちと活動できたことが印象に残っています。教研合宿では、チュートリアルの授業で取り組んだ研究報告や交流を通して教育への理解を深め、学年間の関係もより強くなりました。4年生になると教採対策や就職活動が始まり、仲間と励まし合いながら取り組んだ日々は忘れられない思い出です。私は小学校教員を志し、教採対策に加えて週に1度の学校訪問を通して授業を観察し、子どもたちと関わる中で自分に必要な力を考えるようになりました。これらの経験は、4月からの教員生活への大きな励みとなっています。これまでご指導いただいた先生方、そして共に歩んできた仲間へ心より感謝しています。ありがとうございました。



## 心理領域

奥西 勇輝

大学4年間を振り返ると、多くの出会いと学びに恵まれました。教育学部では、通常の講義や集中講義での学び合いや助け合いを通して、自然に他の学生との関係性が作られていったように感じます。他学部 비해、学年全体での講義やグループワークが多く、多くの学生との関わりがあることが教育学部ならではの良さであると感じました。教育実習では、児童、生徒とのふれあい、現職の先生方のサポートを通して、私たちの成長の場を設けていただき、今までの私の人生の中で最も濃い期間になりました。

心理学研究室では、実験や研究を通して、「心理学とは何か」を学びました。現在は、その集大成である卒業論文を、研究室の仲間と助け合い、励まし合いながら作成しています。私は地元で就職する予定ですが、4年間を通して教育学部、心理学研究室でよかったなと感じています。この場をお借りして、学生生活をともに過ごした仲間と支えてくださったすべての方々へ心より感謝申し上げます。



## 生活・総合領域

中尾 麗美

香川大学で過ごした4年間は、私にとってかけがえのない時間でした。なかでも、生活科の学びを通して出会った仲間の存在は、大学生活の大きな支えであり、かけがえのない財産です。

2年次に生活・総合領域に進んでからは、共に学び、高め合える仲間と出会いました。豊島夜間グラウンド開放事業では、子どもたちが遊びを通して気づきを得られるようにと試行錯誤しながら準備に取り組み、その中で仲間との絆も深まりました。

そのつながりは教員採用試験の時期にも大きな支えとなり、悩んだときには互いに助け合いながら乗り越えることができました。切磋琢磨して過ごした日々は、私にとって大切な経験です。

春からは兵庫県で教員として働きます。これからはそれぞれ異なる地域で教員として歩むこととなりますが、同じ志を持つ仲間として、これからも励まし合える関係でありたいと思っています。4年間、本当にありがとうございました。



## 特別支援教育領域

山下 紗英

私が大学生活で特に印象に残っていることは特別支援学校での3週間の教育実習です。小学校や中学校と違い、授業準備や子どもへの関わりなど大変だと感じた時もありましたが、同じ特別支援教育領域の仲間たちがいたからこそ、乗り越えることができたと思えました。特別支援学校での3週間の教育実習は、子どもと上手くコミュニケーションを取れず困難さを感じたり、夜遅くまで教材研究をしたことによる睡眠不足であったり、心身ともに多忙な日々でした。しかし、放課後に特別支援教育領域の仲間たちと研究室に集まって、その日の出来事を振り返ったり指導案を一緒に考えたりした時間はとても楽しくかけがえのないものでした。この経験を通して、仲間と学び合い支え合うことの大切さを実感し、大学生活における大切な交友の思い出となりました。また、特別支援教育領域の先生方はとても温かく、困ったときには親身になって相談に乗ってくださり、とても感謝しています。今後は一人一人進む道は違いますが、それぞれの場所で頑張っていきたいと思えます。



## 社会領域

玄馬 久那愛

高校生の頃、入学すると思っていた香川大学教育学部。何の変哲もない4年間が、ただただ過ぎるだけだと思っていました。しかし、そのような考えを払拭してくれたのが社会領域でした。社会領域では、日本史や社会学などの座学だけでなく、実際に模擬授業をしたり、お遍路などのフィールドワークをしたりと、実践的で充実した学びが多くありました。香川大学ならではの講義も多く、四国のことについて知ることができました。その一方で、自分なりに地元の岡山県と比較することもあり、地元を離れたからこそ、より一層、岡山の魅力に気づくこともできました。大学生活では、課題や教育実習などで苦しいこともありましたが、社会領域の仲間とともに協力し、時には衝突しながらも乗り越えることができました。また、社会領域の先生方には研究指導や講義において、大変お世話になりました。人生は、思った通りにいかないからこそ面白い。そのような気づきを得ることのできた4年間でした。ありがとうございました。これからも何事も楽しみながら1日1日を過ごしていきたいと思えます。



## 国語領域

相澤 咲希

対面式で緊張の中、キャップに立候補した時から3年間、「あなたがキャップでよかった」と何度も声をかけてくれた同期に支えられ、遂にその役目も終わりを迎えました。

とても個性的で、集まればいつも笑いが絶えない同期に恵まれたことを幸運に思います。課題で遅くまで残った夜も、同じ空間で頑張る仲間がいるだけで心強く感じられ、互いに自然に支え合う関係ができていました。励まし合った時間や弱音を吐き合った瞬間など、すべてが大切な思い出です。

先生方は専門分野にとどまらず、幅広い知識と深いご見識をお持ちで、私たちに新たな視点と道筋を示してくださいました。尊敬の念が尽きない先生方ですが、行事の際には、気さくに国語から離れた話題についても語ってください、先輩や後輩とともに、楽しく温かい時間を過ごすことができました。

春からは、それぞれが新たな道へ踏み出します。私は、この研究室で得たつながりと学びを胸に、理想の教師像を目指し、一層努力してまいります。

結びに、これまで支えてくださったすべての方に心より感謝申し上げます。



## 数学領域

高岡 奏斗

私たちはコロナウイルスの影響がまだ少し残っている中で大学生活がスタートしました。4年間を振り返ってみると、あっという間に時間が過ぎてしまったと率直に感じています。そのように感じるのも、この教育学部での学びがとても充実していたからだと思えます。数学研究室では、先生方や同級生との交流を通して、自分にはない新たな視点や考え方にたくさん触れることができました。また教育実習での教材研究や、教員採用試験に向けた模擬授業対策で教科内容について議論した日々は、数学教育の難しさと面白さを強く実感することもできました。春からは中学校教員として教壇に立つこととなります。この数学研究室で学んだことを生かし、子どもたちの成長を支えることのできる教員になりたいと思えます。この4年間、充実した生活ができたのも支えてくださった方々のおかげです。本当にありがとうございました。



## 理科領域

吉川 美優

香川大学で過ごした4年間は、私にとってかけがえない時間となりました。入学当初は、新しい環境に対する不安も大きく、大学生活にうまくなじめるのかどうか心配していました。しかし、友人ができ、授業や日々の活動を通して過ごす時間が増えるにつれて、不安は次第に楽しさへと変わっていきました。

領域ごとに分かれてからは、理科領域の仲間とともに、毎週の実験や課題、教育実習に協力しながら取り組み、様々な困難と一緒に乗り越えてきました。みんなでご飯会を開いたことや、峰山に登ったことは、とても良い思い出となりました。また、教員採用試験の時期には、仲間とともに勉強したり、練習したりすることで大きな励みを得ることができました。ともに努力してきた仲間のおかげで、最後まで頑張ることができました。先生方には、授業はもちろん、大学生活の様々な場面で温かく支えていただきました。

大学で出会い、支えてくださったすべての方々へ心より感謝申し上げます。4年間、本当にありがとうございました。



## 美術領域

藤原 じゆな

香川大学で美術領域として過ごした4年間は、思い返すと胸が静かに熱くなるほど幸せな時間でした。ここを選んだ自分に「素敵な選択だったよ」と伝えたいです。1年の頃から、もりちゃん・麻織・私の3人でお昼を囲み、絵を描き、何気ない日々を積み重ねてきました。誕生日を4回一緒に祝えたことは、最高の思い出です。2年生からは高井くんが加わり、4人で過ごす景色はさらに豊かになりました。

先生方はいつも温かく、同期4人と先生に会うことが、大学へ向かう私の原動力でした。3人はそれぞれ違う視点や感性を持っていて、そばにいてだけで自分の中の世界がふわっと広がるのを感じました。私たちの代は、一つのポスターを全員でつくるなど「ともにつくる」ことを大切に、違いが生まれても妥協せずに向き合い続けました。その積み重ねが、これからの私の軸になります。

この経験をもとに、子どもたち一人ひとりの違いを大切に、未来をともにつくる美術教師になります。ふと目にする光や色、そして「先生、また明日」と笑う生徒——そんな一瞬を大切にできる人であり続けたいです。



## 音楽領域

北野 あゆな

音楽領域で過ごした大学生活は、たくさんの出会いや学びに溢れ、とても充実した時間でした。

日々の授業では、教職に関する幅広い知識や高い技能の習得を目指し、学生同士で切磋琢磨しながら学び合いました。管楽器や声楽など専門として選択した分野だけでなく、弦楽器や能楽などを学ぶ機会もあり、改めて音楽の魅力や奥深さを実感することができました。さらに、定期演奏会や美術館エントランスコンサート、瀬戸内国際芸術祭でのオペラをはじめとして、大学内外での演奏の機会をいただき、より実技を研鑽するとともに、企画・運営にも携わることができました。これらの経験から、音楽を軸に人と関わりながら成長していくことの大切さを学びました。

最後に、いつも温かくご指導いただいた先生方をはじめ、大学生活を支えてくださった方に、心より感謝申し上げます。研究室の先輩や後輩、友人にも恵まれ、充実した時間を過ごすことができました。春からは、大学での経験を活かし、教員として学び続けていきます。ありがとうございました。



## 保健体育領域

福井 健太

香川大学で過ごした4年間は、学びや出会いに恵まれた、とても充実した時間でした。その中でも、2年生から所属した保健体育科研究室での経験は、大学生活をより豊かで特別なものにしてくれました。研究室では、毎日の授業を共に過ごし、長い時間を同じ仲間と過ごす中で、自然と支え合い、励まし合える関係を築くことができました。学年を越えて関わる機会も多く、研究室ならではの温かい雰囲気の中で、多くの思い出を作ることができたと感じています。2年生の遠泳実習では、小豆島の海で1~2時間泳ぎ続け、プールでの練習とは全く異なる自然の厳しさと達成感を味わいました。また、スキー合宿では、慣れない雪山の環境の中で仲間と声を掛け合いながら挑戦し、技術面だけでなく、互いを思いやり、支え合うことの大切さを学ぶことができました。これらの実習や合宿は、保健体育科ならではの貴重な経験であり、今でも強く心に残っています。さらに、月に1回行われる体研杯では、学年を越えてバレーやサッカーなどのスポーツに取り組み、和気あいあいとした雰囲気の中で交流を深めることができました。この研究室で過ごした約3年間を通して、身体を動かす楽しさだけでなく、人と共に学び、同じ時間を共有することの大切さを実感しました。共に過ごした仲間、日々支えてくださった先生方には、心から感謝しています。香川大学で得た学びと出会いを胸に、これからも前向きに歩んでいきたいと思えます。本当にありがとうございました。



## 技術領域

藤田 祐也

大学生生活を振り返ると、入学当初は新型コロナウイルスの影響により、不安の中でのスタートでした。しかし、対面授業が増えるにつれ、仲間や先生方と直接関わる機会が増え、大学生生活の充実を実感するようになりました。

技術領域では、木材加工や金属加工、電気・情報分野など、実習を通してものづくりの楽しさと難しさを学びました。試行錯誤を重ねながら作品を完成させた経験や、仲間と協力して課題に取り組んだ時間は、忘れられない思い出です。

また、教育実習や研究活動を通して、技術を学ぶ意義や教えることの責任について深く考えるようになりました。多くの先生方や先輩、仲間の支えがあったからこそ、困難を乗り越えることができたと感じています。

これからは、大学で学んだことを生かし、技術教育に携わる一員として成長し続けていきたいと思えます。4年間お世話になったすべての方々に、心より感謝申し上げます。



## 家庭領域

戸上 由美子

香川大学で過ごした4年間は、たくさんの仲間に出会い、様々なことに挑戦し、充実した時間になりました。特に印象に残っているのは、初めて子どもたちの前に立ち、マシュマロがふわふわになる不思議についての授業を行った「未来からの留学生」です。先生から助言をいただいたり、学生同士でアイデアを出し合ったりすることで、分かりやすく楽しい授業を作ろうと皆で精一杯取り組みました。また、家庭領域の皆で行った「東かがわ市フィールドワーク」では、訪問の計画・実行を学生主体で行い、その大変さを実感するとともに、快く訪問を受け入れ、丁寧に説明してくださった訪問先の方々のおたかさを感じました。その他にも多くの領域内の行事運営に携わり、失敗することもありましたが、貴重な経験と大きな達成感を得られました。春からはそれぞれの道へ歩みを進める私たちですが、熱心にご指導いただいた先生方、香川大学で出会った仲間たち、私たちを支えてくれたすべての方々への感謝を胸に、ここからまた成長できるように努力していきます。



## 英語領域

宇藤 佳祐

入学当時の自己を振り返ると、多くの出会いと経験を通して、見違えるように成長することができた4年間であったと感じています。

英語領域での活動では、2年次に開催された「未来からの留学生」が、私にとって大きな学びとなりました。子どもたちに英語の面白さを伝えるため、企画から制作までをメンバー全員で担い、無事に成功させることができました。個性的ながら努力家で、行動力にあふれるメンバーの姿は、今も印象に残っています。

また3、4年次の教育実習では、将来の自分を思い描きながら、授業と向き合いました。決して容易ではない実習生活を乗り越えられたのは、先生方や仲間の支えがあったからだと感じています。

これからそれぞれのキャリアを歩んでいくこととなりますが、香川大学での出会いと経験を忘れず、誠心誠意前に進んでいきたいと思えます。最後になりますが、英語研究室の先生方をはじめ、これまで支えてくださった皆様に、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



大学院 教育学研究科

## 高度教職実践専攻(教職大学院)

新居 淳嗣

「自分自身の最も変化したことは何か」と問われると、「今ある枠組みや自分の考えを『疑う』ようになったこと」と答えます。これまで当たり前「よい授業とは」「よい学級とは」「よい学校とは」と信じてきたことが、本当にそうなのか、立ち止まって考える習慣ができつつあります。

小学校教諭として勤めて10年が過ぎ、現場で働く中で感じていた課題を解決したいという目的をもってこの大学院に来ました。日々の講義で教えてもらったり議論したりする内容はいつも新しく、私の知らないことばかりで、まさに見え方が豊かになっていく深い学びでした。さらに、ここで共に学ぶ院生は、異なる校種や職種、年代、立場も様々で、毎日の対話を通して、自らの知見が大きく広がりました。

大学院での学びを私自身に留めておかず、目の前の子どもたち、現場の先生方に少しでも還元していきたいです。私自身も、学び続ける教員としてあり続けたいです。ありがとうございました。



# 松楠会ではこんな活動もおこなっています

## 若手会員活性化事業

平成27年度から、「若手会員活性化事業」として活動奨励金を設けています。

各支部若手会員活動奨励費・・・支部活動の一環とした若手会員の自主活動への助成

支部の若手会員が中心となり企画した、松楠会会員が中心となり実施する活動に対して必要経費を上限5万円まで支援します(ただし、松楠会の若手会員の参加人数が5名以下の場合は、2万円を上限とします)。各支部の若手会員の交流や活性化につなげてください。

例：レクリエーション関係…人間関係・絆づくり(先輩～後輩)  
学びの場づくり等…新しい実践研究や指導方法への挑戦、アイデア教材交流会

### 令和6年度 報告

#### ● 坂出支部

「わくわく授業づくりワークショップ4回実施」

附属坂出小学校

参加人数延べ108名

うち松楠会若手会員 藤川裕人 他20名参加



#### ● 小豆支部

#### ● 小豆支部

「学習会&懇親を深める会、情報交換会、2回実施」

大学教員1名(清水学内理事)

小豆島町立池田小学校

久米健太郎、他若手会員1～3名、他現職教員6～11名参加



#### ● 綾歌支部

#### ● 綾歌支部

「事務職員の専門性を生かした主体的・積極的な校務運営への参画」

丸亀市立岡田小学校

篠井まどか、他若手会員1名、他現職教員16名参加



#### ● 兵庫支部

#### ● 兵庫支部

「神戸の街と本の魅力を知ろう」

中山雅登、他若手会員3名、他13名参加



## 教職自主サークル

毎週月曜日の夜に行われている学生の自主的活動「教職自主サークル」に対し、助成をおこなっています。

### 令和7年度 報告

#### ● 先輩教員に学ぶ会～模擬授業を指導していただく～

令和7年8月2日(土) 13:30～16:00

教員1年目の先輩方に、香川県内のほか岡山県や徳島県など各地から香川大学にお集まりいただき、教員採用試験に挑む学生たちの模擬授業を見てご指導いただきました。先輩からのアドバイスは、日々の授業実践に即した具体的なものであり、学生にとってたいへん参考になりました。また、教職に対する不安や学校現場の実情などについての話し合いも行われ、先輩と後輩のつながりをつくるよい機会になりました。

参加者は、交流人事教員3名(川東芳文、中名紀子、大和田俊)、先輩教員28名、教職志望の4年生62名でした。





## 学生支援事業

教育学部が主催し、教育学部の学生が参加する行事・活動に対し、助成をおこなっています。

### 令和7年度 報告

#### ●第24回 未来からの留学生

令和7年10月12日(日) 香川大学教育学部(幸町北キャンパス)にて

教育学部の学生・教職員が、地域の小学生を「未来からの留学生」として招待し、各領域の特色を生かした講座を企画・開催しました。



## 松楠会支援事業(詳細は、松楠会HPに掲載)

高校生以下の児童・生徒を対象にした青少年の健全育成事業、教育活動事業などに対し、助成をおこなっています。

### 令和6年度 報告

#### ●動くおもちゃづくり&科学体験教室

大川支部 六車周二 他 松楠会員6名  
令和6年5月18日(土)から  
令和6年11月16日(土)にかけて実施  
(参加人数延べ約453名が参加)

さぬき市・東かがわ市の園児・児童を対象に、イベント会場や児童館等で動くおもちゃづくりや科学体験教室を実施した。



## 会員表彰

本を出版されたり、発表会・展覧会の開催、競技会等で優秀な成績を挙げられたりした松楠会会員の方々を表彰しています。なお図書の出版は、表紙に会員の氏名が掲載されている場合とさせていただきます。



(これまで出版・表彰された本の一部です。)

## 会員の広場

松楠会ホームページに「会員の広場」を設けています。

### ●随想

松楠会員の方々が執筆した、昔懐かしい思い出話や日々の生活で思うことなどを掲載しています。



### ●同窓会情報

学年や研究室ごとに集まった同窓会の報告や開催告知を掲載しています。



掲載を希望する方は松楠会事務局までお知らせください。

# 令和7年度松楠会役員

\*は、今年度新しく交代された方です。

## 役員

会長	藤本 泰雄
副会長	貞廣美津子
	木村 彰彦
	井上 和枝*
顧問	平 篤志
理事長	山本木ノ実*
学内理事	近泉 尚哉* 坂井 聡 片岡 元子 植田 和也 宮本 賢作 塩井 実香
	中島栄美子 清水 顕人 大西 美輪 大浦みゆき 高橋 智香 稗田 美嘉
	倉沢 均 中名 紀子
	(但し、中名の学内理事期間は、人事交流の期間とする。)
附属理事	藤村 まや*(高松)
	河江奈緒美*(坂出)

## 支部事務局

支部名	担当者
高松支部	池田 茂樹*
丸亀支部	増田紫真子
坂出支部	河江奈緒美*
大川支部	井上 裕章*
小豆支部	笠井美恵子
木田支部	高重 淳*
綾歌支部	白井 邦彦*
仲・善支部	竹森 正博
三・観支部	白杵 優*
大阪支部	信垣 綾子
兵庫支部	山川 寿夫
岡山支部	小林 巧
徳島支部	大草 晴香

## 事務局報告

令和7年度評議員会（総会）の報告については、松楠会ホームページをご覧ください。

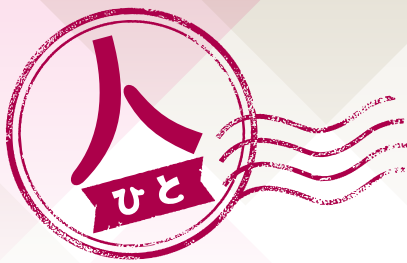
### 令和6年度 松楠会支援事業

● 動くおもちゃづくり&科学体験教室（大川支部 代表 六車 周二 他）

### 令和6年度 学生支援事業

● 第23回未来からの留学生（令和6年10月13日（日）香川大学教育学部）

● 第18回わくわくコンサート（令和7年1月26日（日）サンポートホール高松）



坂南市立松山小学校 教頭 倉野 晴代



## つながり、育ち合う

交流人事教員として充実した3年間を経て、令和7年度より坂南市立松山小学校で勤務しております。教員となり30数年、さまざまな出会いがありました。いつも元気を与えて支えてくれたのが子ども、そして同僚（なかま）であることは変わりません。

松山っ子は、登校すると元気に友達と校庭で遊んだり、あいさつを明るく交わし合ったり、してみたいことに一人一人がチャレンジしようとしたりと、健やかさを感じる子どもたちです。子どもの健やかさを支えているのは、何でしょう。保護者であり、教職員であり、地域の方々が関わり、つながり、そして支えていることが大きいと思います。地域に学習で何うと、いろいろなお話を何うとともに、子どもたちは満面の笑みで「～な話を聞かせてもらったよ」「おもしろいこと、発見したよ」「松山って、すてき」と、伝えてくれます。地元を愛する気持ちと誇りを感じていることが言葉と表情にあふれています。教員もあちこち歩いて発見を楽しみに活動しています。このような人と人の関わり合いは、子どもの地域とのつながりを強めている一つになっています。「子どもが喜ぶとうれしいんや」と地域活動をしてくださる方々の言葉。まさに未来を生きる子どもたちを地域で育てているのです。

現代社会の変化はとても速く、デジタル世界でもあります。便利さがある一方、人にはゆっくりじっくり育つ場や時間も必要に思います。子どもの姿を通して、地域で人の温かみ、共生する喜びなどを感じる土壌がやはり大切だと実感する日々です。子どもとも大人とも「つながり」を創り、「育ち合う」ことを楽しめるよう、これからも歩んでいきたいと思えます。



合同の春季大運動会 一緒にソーレ!



ガーデンづくり 一緒に植えよう



金時みかんのひみつだ!

### 編集後記 ■ ■ ■

- 原稿執筆にご協力いただきました皆様のおかげで松楠会報第63号を発行できますことを心より感謝申し上げます。
- 日々の歩みはそれぞれでも、本会報を通じて同窓生のつながりを感じていただければ幸いです。なお、会報の題字をご揮毫くださった小西憲一先生が、この春ご退職されます。先生の温かく優しい筆致は、今後も変わらず会報の表紙を飾り、同窓生を結ぶ象徴として受け継がれていきます。引き続き、その題字のもと、会員の皆さまのご活躍とつながりを丁寧にお伝えする会報をお届けしてまいります。

松楠会ホームページ

松楠会  検索

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~syounankai/>



## 松楠会報

第63号

発行日 令和8年3月24日

発行人 藤本 泰雄

山本木ノ実

編集 中島栄美子

大西 美輪

塩井 実香

中名 紀子

瀧岡 歌織

香川大学教育学部同窓会 松楠会